

札幌中央基署発 0129 第 2 号
札幌東基署発 0129 第 4 号
令和 7 年 1 月 29 日

関係団体 各位

札幌中央労働基準監督署長
(公 印 省 略)
札幌東労働基準監督署長
(公 印 省 略)

令和 6 年度化学物質管理強調月間の実施について (協力依頼)

労働基準行政の運営につきましては、格別の御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、標記について、令和 4、5 年の労働安全衛生法令の改正に伴い、国が行う化学品の危険性・有害性の分類 (GHS 分類) で危険性・有害性が区分されている物質全てを対象として、事業者が危険性・有害性の情報に基づくリスクアセスメントを実施し、その結果に基づき、ばく露防止のために講ずべき措置を事業者自らが適切に選択、実施すること (自律的管理) を基軸とする新たな規制が導入され、令和 6 年 4 月から施行されました。

これに伴い、対策を講ずべき事業場の範囲が、従来の製造業中心から第三次産業を含めた幅広い業種に拡大し、化学物質管理の知見がかならずしも十分でない第三次産業の事業場等も含め、新たな化学物質規制を広く浸透させる取組が必要であることから、今般、「化学物質管理強調月間」が創設され、別添の「令和 6 年度化学物質管理強調月間実施要綱」に基づき、

「正しく理解 正しく管理 化学物質と向き合おう」

をスローガンとし、全国一斉に積極的な活動が行うこととなりました。

つきましては、この強化月間の趣旨を御理解いただき、本月間が効果的に実施され、各事業場において労働衛生管理活動の定着が図られるよう、貴団体傘下会員に対する周知・啓発について特段の御協力をお願い申し上げます。

《問い合わせ先》

札幌中央労働基準監督署 (担当 安全衛生課 加藤)

電 話 011-737-1192

札幌東労働基準監督署 (担当 安全衛生課 百瀬)

電 話 011-894-2816

令和6年度化学物質管理強調月間実施要綱

1. 趣旨

国内で輸入、製造、使用されている化学物質は数万種類にのぼり、その中には、危険性や有害性が不明な物質が多く含まれる。また、化学物質による休業4日以上の労働災害（がん等の遅発性疾病を除く。）のうち、特定化学物質障害予防規則（昭和47年労働省令第39号）等の特別規則による規制の対象となっていない物質に起因するものが多数を占めている。

これらを踏まえ、特別規則による規制の対象となっていない物質への対策の強化を主眼とし、国によるばく露の上限となる基準等の制定、危険性・有害性に関する情報の伝達の仕組みの整備・拡充を前提として、事業者が、危険性・有害性の情報に基づくリスクアセスメントの結果に基づき、国の定める基準等の範囲内で、ばく露防止のために講ずべき措置を適切に実施する制度を導入したところである。

こうした規制の対象となる化学物質（リスクアセスメント対象物）は順次拡大され、令和8年4月から約2,900物質が規制対象となるが、これに伴い、対策を講ずべき事業場の範囲が、従来の製造業中心から第三次産業を含めた幅広い業種に大幅に拡大する。また、業種・規模に関わらず、リスクアセスメント対象物を製造、取扱い等を行う全ての事業場において、化学物質管理者を選任し、化学物質を管理させる必要があり、化学物質管理の知見が十分でない第三次産業の事業場や中小零細事業場に対しても、新たな化学物質規制を広く浸透させる取組が重要となる。

また、国際的には、「化学物質に関するグローバル枠組み（GFC）—化学物質や廃棄物の有害な影響から解放された世界へ」（第5回国際化学物質管理会議採択）において、多様な分野（環境、経済、社会、保健、農業、労働等）における多様な主体（政府、政府間組織、市民社会、産業界、学術界等）によるライフサイクル（製造から製品への使用等を経て廃棄まで）を通じた化学物質管理が求められていることから、国内の化学物質管理において関係省庁が連携し相乗効果を高めていくことが必要である。

このような背景を踏まえ、厚生労働省は、経済産業省、環境省等の関係行政機関、災害防止団体等安全衛生関係団体、労働団体や事業者団体等の幅広い協力を得て、令和6年度化学物質管理強調月間を、以下のスローガンの下で展開することにより、広く一般に職場における危険・有害な化学物質管理の重要性に関する意識の高揚を図るとともに、化学物質管理活動の定着を図ることとする。

正しく理解 正しく管理 化学物質と向き合おう

2. 期間

2月1日から2月28日までとする。

3. 実施体制

(1) 主唱者

厚生労働省、中央労働災害防止協会

(2) 協力連携者

経済産業省、環境省

(3) 協賛者

建設業労働災害防止協会、陸上貨物運送事業労働災害防止協会、港湾貨物運送事業労働災害防止協会、林業・木材製造業労働災害防止協会

(4) 協力者

関係行政機関、地方公共団体、安全衛生関係団体、労働団体及び事業者団体

(5) 実施者

各事業者

4. 実施事項

(1) 主唱者・協力連携者・協賛者

(ア) 化学物質管理に係る啓発

化学物質管理の知見が十分でない第三次産業や中小零細事業場を重点として、化学物質管理を広く浸透させることを目的とした周知啓発活動の実施

(イ) 化学物質に関する説明会等の開催

化学物質に関する法令や対策等に係る、化学物質管理に取り組む事業者向けの説明会等の開催

(ウ) 「化学物質と環境に関する政策対話」等の実施による情報共有及び意思疎通

(エ) 化学物質アドバイザー等を活用した普及啓発

(オ) 化学物質管理に係る広報資料等の作成、配布

(カ) 雑誌等を通じた広報

(キ) 事業者の実施事項についての指導援助

(ク) その他「化学物質管理強調月間」にふさわしい行事等の実施

(ケ) (ア)～(ク)の事項を実施するため、協力者に対し、支援、協力の依頼

(2) 実施者

(ア) 製造し、又は取り扱っている化学物質の把握及び、化学物質の安全デー

- タシート（以下「SDS」という。）等による危険有害性等の確認
- (イ) 特定化学物質障害予防規則等の特別規則、石綿障害予防規則の遵守の徹底
 - (ウ) ラベル表示・SDS交付、リスクアセスメントの実施等
 - a 製造者・流通業者が化学物質を含む製剤等を出荷する際のラベル表示・SDS交付等の徹底及びユーザーが購入した際のラベル表示・SDS交付等の状況の確認
 - b SDS等により把握した危険有害性に基づくリスクアセスメントの実施とその結果に基づくばく露濃度の低減や適切な保護具の使用等のリスク低減対策の実施
 - c ラベル・SDSの内容やリスクアセスメントの結果に関する労働者に対する教育の実施
 - d 危険有害性等が判明していない化学物質を安易に用いないこと、また、危険有害性等が不明であることは当該化学物質が安全又は無害であることを意味するものではないことを踏まえた取扱物質の選定、ばく露低減措置及び労働者に対する教育の推進
 - e 皮膚接触や眼への飛散による薬傷等や皮膚からの吸収等を防ぐための適切な保護具の使用や、汚染時の洗浄を含む、化学物質の取扱上の注意事項の確認
 - f 特殊健康診断等による健康管理の徹底
 - g 塗料の剥離作業における健康障害防止対策の徹底
 - h 金属アーク溶接等作業における健康障害防止対策の徹底
 - (エ) 化学物質管理者の選任状況の確認
 - (オ) 日常の化学物質管理の総点検
 - (カ) 事業者又は化学物質管理者による職場巡視
 - (キ) スローガン等の掲示
 - スローガンは、必要に応じて以下より選択
 - ・正しく理解 正しく管理 化学物質と向き合おう
 - ・危険知り 管理を徹底化学物質 みんなで守れ安心職場
 - ・目に見えないからこそ実施しよう 化学物質のリスクアセスメント
 - ・化学物質に潜む危険 知って対策 慣れた作業も総点検
 - (ク) 有害物の漏えい事故、酸素欠乏症等による事故等緊急時の災害を想定した実地訓練等の実施
 - (ケ) 化学物質管理に関する講習会・見学会等の開催、作文・写真・標語等の掲示、その他化学物質管理への意識高揚のための行事等の実施

～正しく理解 正しく管理 化学物質と向き合おう～

2月は 化学物質管理強調月間 です！

厚生労働省では、広く一般に職場における危険・有害な化学物質の管理の重要性に関する意識の高揚を図るとともに、化学物質管理の定着を図るため、「**化学物質管理強調月間**」（実施期間：令和7年2月1日から2月28日）を創設しました。

本月間を契機として、化学物質を製造又は取り扱う事業場において、化学物質に関する危険有害性等の確認や健康障害防止対策の徹底など、化学物質管理活動に積極的に取り組みましょう。

1 化学物質管理強調月間 実施要綱 について

本月間において、事業場において取り組む事項等を「**化学物質管理強調月間実施要綱**」で定めています。詳しくは同要綱をご覧ください。

【主な取組事項】

- 1 化学物質の安全データシート（SDS）等による危険有害性等の確認
- 2 特定化学物質障害予防規則等の特別規則、石綿障害予防規則の遵守の徹底
- 3 ラベル表示・SDS交付、リスクアセスメントの実施等
- 4 化学物質管理の総点検、事業者又は化学物質管理者による職場巡視
- 5 化学物質管理に関する講習会や化学物質管理への意識高揚のための行事等の実施 など

実施要綱は、北海道労働局HP・本月間の記事の中に掲載しています。 →



厚生労働省北海道労働局

2 化学物質管理に関する自主点検表をご活用ください

本月間の実施に当たり、事業場での化学物質の管理事項に関する自主点検表を作成しましたので、ご活用ください。なお、点検結果により、改善が必要な事項については、改善のための取組をお願いします。



自主点検表は、北海道労働局HP・本月間の記事の中に掲載しています。→



3 化学物質管理に関するオンラインセミナーのご案内

化学物質管理に関する理解を深めていただくため、オンラインセミナーを開催します。ぜひご参加ください。

日 時：令和7年2月28日（金）14:00～15:30

内 容：これからの化学物質管理について

参加方法等：参加無料、オンラインでの実施、定員100名（先着順）

お申し込み等、詳しくはこちらをご覧ください →

（北海道産業保健総合支援センターのHPとなります。）



4 化学物質管理に関するウェブサイトをご活用ください。

参考となる以下のウェブサイト等をご活用ください。

◆厚生労働省 化学物質関連ページ（研修動画等もご用意しています。）

◆厚生労働省 職場のあんぜんサイト 化学物質関係ページ

◆労働者健康安全機構 職場の化学物質管理総合サイト

ケミサポ



化学物質の自律的な管理に関する自主点検表



✓ が見つからない場合は、[解説](#) やリンク先の情報等を参照して確認をしましょう。

<p>① 事業場で製造・取り扱っている化学物質がリスクアセスメント（RA）対象物であるかを把握していますか。</p>	<input type="checkbox"/>
<p>解説 化学物質を化学的に合成するほか、混合、濃縮・希釈、他物質を添加、小分け等により化学物質等を含む製品化を行うことも「製造」に該当します。</p> <p>令和6年4月1日時点のRA対象物はこちらのリストをご覧ください。</p> <p>また、令和7年4月1日に約700物質、令和8年4月1日に約800物質が追加される予定です。追加物質については、以下の一覧表を確認してください。</p> <p>労働安全衛生法に基づくラベル表示・SDS交付等の義務対象物質一覧</p>	
<p>② 化学物質管理者を選任していますか。</p>	<input type="checkbox"/>
<p>解説 令和6年4月1日からRA対象物の製造・取扱事業場等において化学物質管理者を選任することが義務となっています。</p> <p>化学物質管理者は、化学物質の自律的な管理のキーパーソンです。</p> <p>化学物質管理者の選任については、以下のQ&Aの10ページに記載のNo.2-1-1, 2-2-2をご確認ください。</p> <p>化学物質による労働災害防止のための新たな規制に関するQ&A</p>	
<p>③ RAを実施していますか。</p>	<input type="checkbox"/>
<p>解説 リスクアセスメントとは、作業による労働者への危険または健康障害を生じるおそれの程度を見積もり、リスクの低減対策を検討することです。</p> <p>下のQ&Aも参照してください。</p> <p>Q1-1 なぜリスクアセスメントを行わなければならないのか。</p> <p>Q1-2 リスクアセスメントはどのような手順で実施するのか。</p> <p>厚生労働省では、RAの実施を支援するため業種別マニュアルの作成を進めています。次のマニュアルに従ってRAを実施した場合は、右上の□に✓をつけてください。</p> <p>建設業における化学物質取り扱い作業におけるリスク管理マニュアル</p>	

R6.4.1時点



R7, R8 追加分



Q&A



マニュアル



<p>④ RAの結果に基づくリスク低減措置を行っていますか。</p>	<input type="checkbox"/>
<p>解説 法令に講ずべき措置が定められている場合は、リスクアセスメントの結果に関わらず、定められた措置を必ず実施しなければなりません。</p> <p>下のQ&Aも参照してください。</p> <p>Q12-1 リスクアセスメント実施後のリスク低減措置の実施は義務か。</p> <p>Q12-2 リスクを低減するためにはどのような措置を講ずるべきか。</p> <p>③のマニュアルで定められたリスク低減措置を行った場合は、右上の□に✓をつけてください。</p>	
<p>⑤ 安全データシート（SDS）とリスクアセスメントの結果等を労働者に周知し、教育を行っていますか。</p>	<input type="checkbox"/>
<p>解説 化学物質を取り扱う労働者が常時SDSを確認できるよう周知するほか、労働者に教育や周知を行う必要があります。</p> <p>下のQ&Aも参照してください。</p> <p>Q15-1 入手したSDSを労働者に周知しなければならないか。</p> <p>Q15-2 ラベルやSDSの記載内容を労働者に教育する義務はあるか。</p>	
<p>⑥、（保護具を使用している場合） 保護具着用管理責任者を選任していますか。</p>	<input type="checkbox"/>
<p>解説 保護具着用管理責任者の選任については、以下のQ&Aの11ページ以降に記載のNo.2-2-1,2-2-2をご確認ください。</p> <p>化学物質による労働災害防止のための新たな規制に関するQ&A</p>	
<p>⑦（化学物質の譲渡・提供を行っている場合） ラベル表示を行い、SDS等による通知を行っていますか。</p>	<input type="checkbox"/>
<p>解説 化学物質を譲渡又は提供する者は、相手方にSDSの交付等により危険有害性等を通知する必要があります。</p> <p>下のQ&Aも参照してください。</p> <p>Q13-1 SDSはいつ交付しなければならないのか。</p> <p>Q13-2 ホームページでSDSを提供しても良いか。</p>	

第5回 事業主・衛生管理者向けオンラインセミナー

これからの化学物質管理

～法令準拠から自律的管理への転換にどう対応するか？～

この講習会では、化学物質管理専門家により、新たな化学物質規制の概要や自律的管理に対応するための具体的な進め方などについてお伝えします。

法令準拠から自律的管理への転換をスムーズに行うための新しい視点とツールを手に入れましょう！

2025年 2月28日(金) 14:00~15:30

開催方法：Zoomウェビナー【定員100名（先着順）】

事前登録が必要です(どなたでも参加できます)

受講無料



セミナー講師

相澤 和幸

公益財団法人 北海道労働保健管理協会
産業保健部

オキュペイショナルハイジニスト

お申込は
ホームページから

北海道産業保健総合支援センター

検索

「オンラインセミナーのご案内」よりお申し込みください

参加される方は「オンラインセミナーご利用にあたって」を必ずご確認ください

主催：北海道産業保健総合支援センター

共催：北海道労働局